

単元名	作業学習「メモ作り」	教科・領域の視点	数学 職業 自立活動
学部クラス	高等部 3組(1年、3年)	(教科・領域等関連表参照)	
<本単元でつけたい力(単元設定理由)>			
<p>本クラスの生徒は、色々な人から「ありがとう」と言われる経験が少ないと考えられる。自分が作った物を指導者に渡し、「ありがとう」と言われる経験をさせたいと考え、本単元を設定した。慣れた指導者だけでなく、学校内の色々な人にメモ帳を渡すことで、物を介して人に感謝される喜びを感じ、取り組めるようにしたい。一人でやりきれる環境を用意することで足りない材料を指導者に伝えるなど、一人でできる喜びを感じ、働く意欲を高めたい。</p>			
<前単元とのつながり>			
4月からとおしてやり続けているため、「前単元」はなし。			
<共生社会へのつながり>			
<p>1学期は作ったメモを学校内の指導者へ配る活動を実施し、2学期は学校祭の中で地域の方などに配る活動を予定している。卒業後にも様々な人への関わりや活動に自信をもって自分から手伝ったり役割を担ったりして、人から感謝されることへの喜びを知って取り組めるようにする。</p>			
<単元目標>			
<p>(1)メモを製作する工程を理解し、一人でメモを作ることができる。(知識・技能)</p> <p>(2)指導者や地域の方を意識して「失礼します」「どうぞ」などの挨拶や配る活動を行うことができる。 (思考力・判断力・表現力等)</p> <p>(3)足りない道具や材料がわかり、自分から伝えることができる。(主体的に学習に取り組む態度)</p>			
<単元目標の評価規準>			
<p>(1)一人でメモを作ることができたか。(知識及び技能)</p> <p>(2)相手を意識して、挨拶や配る活動を行うことができたか。(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>(3)足りない道具や材料がわかり、自分から伝えることができたか。(主体的に学習に取り組む態度)</p>			
<児童生徒の実態と目標>			
児童生徒名	実態(単元内容と絡めて)	個人の単元目標	手立て
A (3年)	見てわかりやすい環境を設定することで20分ほど作業に取り組むことができる。 発語はあまりなく、自分から要求などを伝えることは少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 一人でメモを作ることができる。 「失礼します」「どうぞ」など自分から相手に伝えることができる。 足りない道具や材料に気づき、自分から伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすいように道具や材料をセッティングする。 指導者が見本を見せ、言えるように促す。 わざと足りない物を作り、環境設定を行う。
B (3年)	見てわかりやすい作業を用意し、「～したら～できる」という見通しをもたせることで5分程度作業に向かうことができる。 発語はあるが、自分から相手に伝えることは少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 一人でメモを作ることができる。 「失礼します」「どうぞ」など自分から相手に伝えることができる。 足りない道具や材料を自分から伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすいように道具や材料をセッティングする。 指導者が言葉かけを行い、言えるように促す。 わざと足りない物を作り、環境設定を行う。

<p>C (1年)</p>	<p>色々な道具があると気になってしまい、集中して作業に取り組みにくい。 発語はないが、人が好きで自分から関わりに行くことが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「～したら～する」など短い工程がわかり、指導者の支援を受けながら、活動に取り組むことができる。 ・相手を見て自分から渡すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程ごとに道具を用意し、集中できるように環境設定を行う。 ・指導者と一緒に繰り返して活動する。
-------------------	---------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

単元計画表

次 (時間)	学習活動	評価規準
1次 (50時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを作って渡す。 ・作ったメモを学校内の指導者に渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でメモを作ることができたか。 ・足りない道具や材料がわかり、自分から伝えることができたか。
2次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭で地域の方に作ったメモを渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者や地域の方に「失礼します」「どうぞ」などの挨拶や配る活動をすることができたか。

<この単元で身についた力>	<次の単元に生かせる力>
<ul style="list-style-type: none"> ・人の目を見て伝えようとするなど、指導者や友達を意識する姿が増えた。 ・自信がないことも指導者の手を持って一緒に活動するなど、少しずつ頑張って取り組める取組や時間が増えてできるようになった。 ・日常生活でも困ったことなどを自分から指導者に伝えようとするが増えた。 ・休憩時間に遊びに行っても自分から教室に帰り、作業を始めることができるようになった。 ・人から「ありがとう」と感謝をされる喜びを感じられるようになった。 	<p>自分から困ったことを伝えられる力は、慣れた指導者だけでなく、他のクラスの指導者にも自分から伝えることができるようにするなど人との関わりを広げていく。</p>

「喜びをともにする授業」～多様性は可能性～



児童生徒の変容エピソード

	写真	児童生徒の様子
一次		机に紙、並べる道具、ホッチキスの道具や材料を並べることで一連の流れがわかり、一人で作れるようになってきました。Aくんは線に合わせて紙をメモ帳サイズに切るなど、丁寧に作業をしようとする姿も見られました。Cくんは完成したメモ帳を職員室へ持って行き、配るといった活動の流れが定着し、「ありがとう」と言われることを励みに自分から活動に向かう姿が増えてきました。
		Aくんは、はんこの場所やインクの付け方など自分で工夫をする姿が見られるようになりました。足りない道具にも自分で気づき、指導者に指差しなどで足りないことを伝えようとするようになりました。職員室への配り活動ではノックをした後に「(失礼)します」「どうぞ」など指導者が促すと言えるようになりました。Cくんは相手の顔を見て、相手を意識して渡すことができるようになりました。
		メモ帳の表紙に顔がかけるようになりました。以前は自信がないことには取り組まなかったAくんも、指導者と一緒ならやれることがわかると自分から指導者の手を取り、一緒に描こうとする場面も見られるようになりました。顔の表情を自らアレンジして、楽しみながら作業することができるようになりました。
二次		Bくんは、自分から「メモづくりする」と伝え、教室に戻り準備をして取り組めるようになりました。Aくんは職員室での挨拶が定着し、入口で立ち止まり、自分から「しつれいしました」と自信をもった表情で言う姿が見られるようになりました。

<単元全体をとおして>

指導者から「ありがとう」と言われることで嬉しそうな姿が見られ、日常生活でも要求などを言葉で伝えることが増えてきました。どの生徒も指導者を振り向いて待ったり、人の目を見て伝えようとするなど、指導者や友達を意識することが増えてきています。活動に参加しにくい生徒も作業に見通しをもつことができ、「メモ作りしたら好きな場所に遊びに行ける」ことを約束することで、自分から作業を進めることができました。